今こそ、患者・利用者・地域のみなさんの医療と介護、そしてくらしを守るために、
全職員の知恵と力を合わせて奮闘しよう!!

茨城民医連・東日本大震災復旧ニュース

Vol.4
2011.3.29

◇小名浜生協病院は、今も地震直後の状況！！　電気はOK、でも水道復旧の見通しがない
～3/27に続き、今日も水やおむつなどを持っていきます～

小名浜生協病院は、建物と駐車場に少しひびが入った程度ですが、いわき市は水道の復旧の見通しが立っていません。水の確保は毎日職員が、浄水場まで汲みにいき1.5トンを60トンの病院の貯水タンクに入れるのだそうです。汲んできた水は洗い物やトイレに使います。水を節約するためにトイレの時間を決めているそうです。先日、患者さんは10日ぶりにお風呂に入りました。

茨城も断水の時は、特に飲み水に困りましたが、小名浜は震災後2週間以上経っても復旧できずにいます。閉店している店も多く、物がない状態がまだ続いていて、飲料水と生活物資、ガソリンの入手が困難です。

海岸に近い地域は津波の被害があり、組合員さん16人を含む100人の方が亡くなられたそうです。その上被曝の心配があり、街を離れた人が5万人いると言われ、道を歩く人もまばらです。

今日も再度「水15箱」「おむつ」「尿とりパット」などを持っていきます。

◇北茨城市の被災後の活動　～市立総合病院と消防の連携で住民の健康をまもる～

北茨城市は大津魚港、平潟漁港など大きな被害を受け5人の死者1人の行方不明者を出しました。被災直後、市の消防本部は素早くDMATに支援要請をだし、3チームが派遣されたそうです。このチームが中心となり避難所に救護所を作り、住民の救助と救護にあたりました。

市民の医療は、主に市立総合病院と高齢者医療中心の滝病院が担っています。滝病院は地震の被害はありませんでした。しかし市立総合病院は、映画「孤高のメス」のロケでも使われるほど老朽化が進んでいるため、玄関と外来棟は大きな被害を受け、入院医療の継続が難しい状況となりました。入院患者約100名は、家に帰れる方は在宅へ、その他の方は県医師会の協力で翌日までに全員が県内の医療機関に転院しました。産婦人科に入院中だった妊婦さんたちは、高萩協同病院で無事出産をしました。

市立病院の医師、看護師たちは、入院施設はなくなったものの、外来での救急対応と救護所や避難所に身を寄せている約2000人の避難住民の救護と健康管理に力を尽くしました。

現在は水道も95%復旧し、17カ所あった避難所が5カ所に減り、避難者も約200人になったそうです。被災した方々は市営住宅や市が借り上げた民間アパートに入居予定だそうです。半壊、全壊家屋の取り壊しは市が無料で行っています。毎日、市長をはじめ市議や関係者が協議して対策を進めているそうです。行政が住民の生活といのちを守るという本来の仕事を、市立病院と連携して機能を発揮している例だと思います。やはり国保の広域化などで市町村の主権を奪ってはならない。身近な役所だからこそ、細やかな対応と対策が行えるのだと思います。

＊DMAT（Disaster Medical Assistance Team）とは、専門的な訓練を受けた医師・看護師などからなり、災害発生直後から活動できる機動性を備えた医療チームです。

◇あおぞら診療所には、福島からの避難者が21名受診

取手市では福島からの避難者が多数避難してきています。市の施設３カ所と取手一高の合宿所に、南相馬市その他から団体で避難されて来た方々や、親戚・知人を頼って来市し貸家やアパートなどに入居された方、また取手地域には戸頭団地・井野団地の２つの大きな集合団地がありますが、そちらにも沢山来られているようです。あおぞら診療所に最も近い指定避難所が取手競輪の宿舎で、そちらからの方や近くに貸家を借りた方などが先週末までに２１名受診（延べ数２３）されました。

来院された方の多くは高血圧や糖尿病など慢性疾患の方で、薬が無くなったというのが主な受診理由です。また避難生活で風邪をひいたり、不眠や便秘を訴える方もいます。保険証を持参できなかった方も５名いて、家が津波で流された方や、事故を起こした原発が５ｋｍ以内で、事故後にとる物もとりあえず自宅を離れ、福島県から茨城県内へ転々とし取手が４カ所目という方もいました。保険証を持参できなかった方はすべて保険適用に当てはまり、保険証持参の方も多くは自己負担猶予の扱いとしています。

今日は、３歳の小児が避難での環境の変化とストレスで便秘となり、食欲もなく受診しました。早速浣腸をしてうんちもでてすっきり、ごはんを食べられるようになるといいです。安蔵師長は、診療所にあったキティちゃんのボールペンとシールを渡して「これで遊んでね」と…。乳幼児にとって避難生活は、衣食住の生活すべてが変わり、母親とゆっくり過ごす時間も取れず、大きな負担です。（新田記）

支援物資をお寄せください

宮城や岩手、お隣の小名浜生協病院でも、「水」や「おむつ」などの生活物資が手に入らず困っています。下記のものを募集します。

ペットボトルの水	マスク	男女衣類(新品に限る)・こどもの衣類
粉ミルク	ナプキン	男女肌着(新品に限る)
ベビーフード	トイレットペーパー	男女靴下(新品に限る)
缶詰	紙おむつ(大人用)	下着(新品に限る)
レトルト食品	紙おむつ(子ども用)	サランラップ
使い捨ておしぼり	バスタオル	割り箸・紙皿・紙コップ
ウェットテッシュ	カイロ	乾電池　水用ポリタンク

～東日本大震災支援募金のお願い～

全国の多くの民医連の仲間が、現地支援に入っていますが、医療と被災者のいのちを守るために長期にわたる支援が必要になります。茨城民医連も第２次支援を４月初旬に実施します。

各事業所とも、被災地支援のための募金活動に取り組んでいますが、あらためて広げて頂くようお願いいたします。

① 支援募金箱を設置して、組合員、友の会員、来院、来所者など広く呼びかけてください。（募金箱は県連にあります）

② 役職員のみなさまには、募金袋を回します。

③ 街頭での呼びかけなど、創意工夫を凝らした取り組みをお願いします。